

## 事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	道路新設改良事業			コード	141203	
2 担当部課	部等	建設水道部	課等	土木課	作成者	小口 直伸
3 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち			
		政策	交通網の整備	施策	道路の整備	
		予算科目	土木管理事務費／道水路整備事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	あり	

## ●事業の実施内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	市道の新設改良の実施		
目的	対象者	市民	
	意図	市道の安全性と利便性の向上を図る	

5 事業の必要性	*事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由		
<p>道路整備を一層効果的、効率的に推進するため、日常の市民生活に最も密着した生活道路整備を実施していく。</p> <p>この市民の日常生活に深い関わりを持つ地区道路については、地区の要望等もふまえ、地域の課題解決のため地区と協議しながら、計画的な整備を図る。</p>			

6 事業の全体計画	*各年度の取組計画			
予定全体事業費	3,300,000,000	円	事業期間	H16～H26年度
23年度まで	道路新設改良工事 354箇所			
24年度	道路新設改良工事（地域の主要路線整備 3箇所、溢水対策 6箇所、道路改良 7箇所、道路後退整備 10箇所、交通安全施設整備 8工事）			
25年度	道路新設改良工事（地域の主要路線整備 3箇所、溢水対策 1箇所、道路改良 9箇所、道路後退整備 8箇所、交差点改良 1箇所、交通安全施設整備 17工事）			
26年度以降	道路新設改良工事 38箇所			

7 事業の実施内容	*各年度の進捗状況		
23年度まで	道路新設改良工事 354箇所		
24年度	道路新設改良工事（地域の主要路線整備 3箇所、溢水対策 6箇所、道路改良 7箇所、道路後退整備 10箇所、交通安全施設整備 8工事）		
25年度	道路新設改良工事（地域の主要路線整備 3箇所、溢水対策 1箇所、道路改良 9箇所、道路後退整備 8箇所、交差点改良 1箇所、交通安全施設整備 17工事）		
前年度の課題への対応	地元要望を参考にしながら、地元と協議し、整備を実施している。		

## 8 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度まで(累計)	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	2,017,599,877	344,405,056	478,419,669	376,962,000
経常経費	2,017,599,877	344,405,056	478,419,669	376,962,000
臨時的経費		0		
* 臨時的経費の説明				
② 人件費		28,000,000	28,000,000	28,000,000
正規職員の人数(人)		3.50	3.50	3.50
③ 合計コスト(①+②)	2,017,599,877	372,405,056	506,419,669	404,962,000
前年度比			136.0%	80.0%
財源				
一般財源	2,017,599,877	18,579,056	194,029,669	94,962,000
内訳				
特定財源		353,826,000	312,390,000	310,000,000
* 特定財源の説明	道整備交付金、社会資本整備総合交付金、一般公共債、一般単独債、狭あい道路整備補助金			

## ●事業の評価 (CHECK)

### 9 事業の進捗状況

区分	23年度まで(累計)	24年度	25年度	26年度(予算)
進捗率				
直接事業費の執行率	61.1%	71.6%	86.1%	
その他の進捗率				
* その他の進捗率の説明				

事業をとりまく環境変化	今まで	(これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと) 近年の財政状況から事業費の大幅な縮減により、計画工事箇所が減っている。 また、道路水路等施設の老朽化が進展しており、新規建設の投資から施設の更新、維持管理に予算を配分していく必要がある。
	今後	(26年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること) 新設改良事業予算確保が困難になっており、各区要望への対応低下が懸念される。

## ●改善の内容 (ACTION)

### 10 今後の課題と対応策

今後の課題	(環境変化を考慮して事業を進めていく上で、26年度以降に課題になること) 予算縮小により、新規投資を必要とする事業が進捗しない。
課題への対応策	(上記の課題をふまえて26年度に実施する、具体的な対応方法) 選択と集中により、より効果的な箇所を見極め整備を行う。 国庫補助等財源確保に務める。

## ●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	C
-----------	--------	---	---